

はじめにお読みください ▲警告(ご使用上の注意)

- 電池をセットする際には、ギター本体のエンドpin・ジャックへの接続がないことを確認してから裏面に記載された"電池交換の手順"にしたがっておこなってください。本体エンドpin・ジャックを接続したままバッテリーケースの抜き差しをおこなうとポップノイズが発生し、接続先の外部機器を破損させる恐れがあります。
- プリアンプのアッパー部(取り外されるパネル側)とロワー部(本体固定側)を接続するコネクターには絶対に手を触れないで下さい。汚損により通電しなくなり故障する場合があります。
- プリアンプのアッパー部とロワー部を接続するコネクターには、金属など導電性のある物を絶対に触れないで下さい。誤った通電などにより故障する場合があります。
- 電池を交換する際は必ず2個同時に行ってください。必ず2個とも新品に交換し、新しいものと古いものを混在させないようにしてください。また、マンガン電池とアルカリ電池など、種類の異なるものを混ぜて使用しないで下さい。極端に電池寿命が短くなります。
- 故障の原因になりますので2個の電池の+と-の電極を間違えないようにバッテリーケースにセットしてください。
- 電池交換の際、プリアンプのアッパー部を取り外した場合、ロワー部内側にゴミなどの異物や異常がないかを確認してからアッパー部を装着して下さい。異物や異常がある場合は直ちに使用をやめ、お買い求めの販売店に点検を依頼して下さい。

電池交換の手順



プリアンプ・パネル
上下のアッパー部
着脱用ツメを指で
内側に引き寄せると、この部分がはず
れ、わざかに押し出
されますので引き
抜きます。



バッテリー・ボックスを引き抜き、電池を交
換します。バッテリー・ボックスを引き抜く際
ギター本体に落下しないよう、充分に注意
して下さい。満幅の広さに電池の+、-極を
合わせて装着します。この際、コネクター(接
点)部分を指で触れぬよう、また、この部分
を金属など導電性のあるものを触れさせな
いようご注意ください。
また、ロワー部(プリアンプ内部)にゴミなど
異物の混入、異常の無い事を確認して下さい。

▲ご使用上の注意 参照



バッテリー・ボックスの電極側
を下向きにし、電池全面が見
える側をギター裏甲に向け、
ロワー部のレールに沿うよう
にセットします。

▲バッテリー・ボックスの挿入
方向を間違えないよう充分に
ご注意下さい。
適確な方向に挿入できない
場合、スムーズにセットでき
ませんので、無理に押し込ま
ず、一旦取り出し確認しましょ
う。



更に、取り外したアッパー部を元
の方向に合わせ押し込んで取り付
けます。この際、スムーズに押し込
めない場合、無理に装着せず、各
部を点検して問題のない事を確認
してから行って下さい。また、アッ
パー部装着後、着脱ツメにゆるみ
がなく、確実に本体と固定されて
いる事を確認して下さい。

▲ご使用上の注意 参照

コントロール機能 & モード切り替え

CT4-DXは、伝統と実績に裏付けられたタカミネ・オリジナル・パラスティックPUを最大限活かしたPU1モードに加え、任意のマグネットックPU、またはコンタクトPUを接続したDUALモードへの機能拡張が可能です。

裏パネルのMODEスイッチにより、フロント・パネルの各種機能が異なりますので、それぞれのMODEでのコントロールにつきご説明します。

●PU1 MODE

MODEスイッチが、PU1の場合、PU1に接続されたサウンドだけが出力されます。

●PU1 インプット端子
タカミネ・オリジナル・パラスティックPU専用インプット端子
PU1 MODEでは、この信号だけが出力されます。

●GAIN1/2 切り替えスイッチ(PU1専用)
タカミネ・パラスティックPUのスタイル弦/ナイロン弦用の
切り替えスイッチ。
通常は、メーカー・出荷時に設定済みの為、触らないで下さい。
1=スタイル弦/2=ナイロン弦用となっています。

○PU2 インプット端子 使用しません。サウンドにも反映されません。
○GAIN(PU2専用) 使用しません。サウンドにも反映されません。

●LOW 低音域の増減をコントロールします。

●LOW-MID 中音域の増減をコントロールします。

●HIGH-MID 高音域の増減をコントロールします。

●HIGH 高音域の増減をコントロールします。

●VOLUME 全体音量を0~最大の範囲でコントロールします。

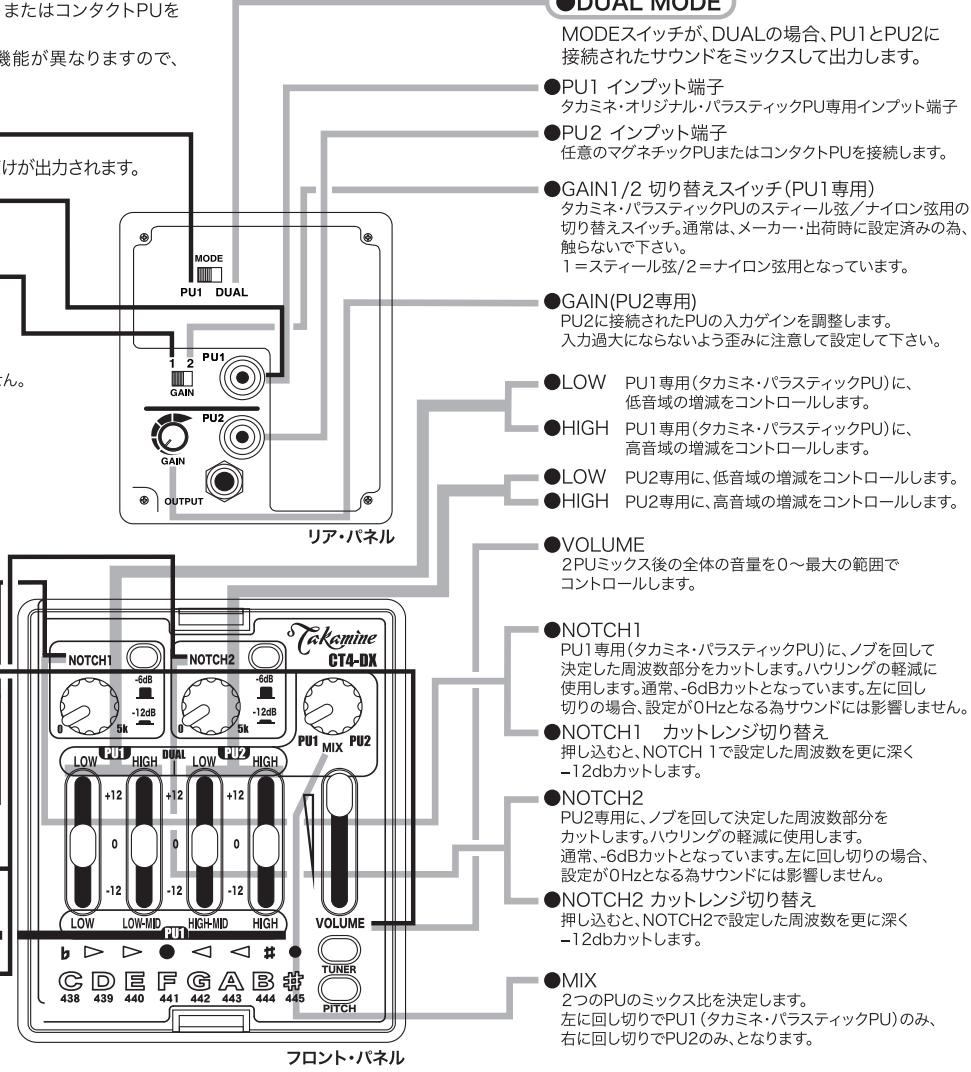
●NOTCH1 ノブを回して決定した周波数部分をカットします。
ハウリングの軽減に使用します。
通常、-6dBカットとなっています。左に回し切りの場合、
設定が0Hzとなる為、サウンドには影響しません。

●NOTCH1 カットレンジ切り替え
押し込むと、NOTCH1で設定した周波数を更に深く
-12dbカットします。

●NOTCH2 ノブを回して決定した周波数部分をカットします。
ハウリングの軽減に使用します。
通常、-6dBカットとなっています。左に回し切りの場合、
設定が0Hzとなる為、サウンドには影響しません。

●NOTCH2 カットレンジ切り替え
押し込むと、NOTCH2で設定した周波数を更に深く
-12dbカットします。

○MIX 使用しません。サウンドにも反映されません。



●DUAL MODE

MODEスイッチが、DUALの場合、PU1とPU2に接続されたサウンドをミックスして出力します。

●PU1 インプット端子

タカミネ・オリジナル・パラスティックPU専用インプット端子

●PU2 インプット端子

任意のマグネットックPUまたはコンタクトPUを接続します。

●GAIN1/2 切り替えスイッチ(PU1専用)

タカミネ・パラスティックPUのスタイル弦/ナイロン弦用の
切り替えスイッチ。通常は、メーカー・出荷時に設定済みの為、
触らないで下さい。

1=スタイル弦/2=ナイロン弦用となっています。

●GAIN(PU2専用)

PU2に接続されたPUの入力ゲインを調整します。
入力過大にならないよう充分に注意して設定して下さい。

●LOW PU1専用(タカミネ・パラスティックPU)に、
低音域の増減をコントロールします。

●HIGH PU1専用(タカミネ・パラスティックPU)に、
高音域の増減をコントロールします。

●LOW PU2専用に、低音域の増減をコントロールします。

●HIGH PU2専用に、高音域の増減をコントロールします。

●VOLUME

2PUミックス後の全体の音量を0~最大の範囲で
コントロールします。

●NOTCH1

PU1専用(タカミネ・パラスティックPU)に、ノブを回して
決定した周波数部分をカットします。ハウリングの軽減に
使用します。通常、-6dBカットとなっています。左に回し
切りの場合、設定が0Hzとなる為サウンドには影響しません。

●NOTCH1 カットレンジ切り替え

押し込むと、NOTCH1で設定した周波数を更に深く
-12dbカットします。

●NOTCH2

PU2専用に、ノブを回して決定した周波数部分を
カットします。ハウリングの軽減に使用します。
通常、-6dBカットとなっています。左に回し切りの場合、
設定が0Hzとなる為サウンドには影響しません。

●NOTCH2 カットレンジ切り替え

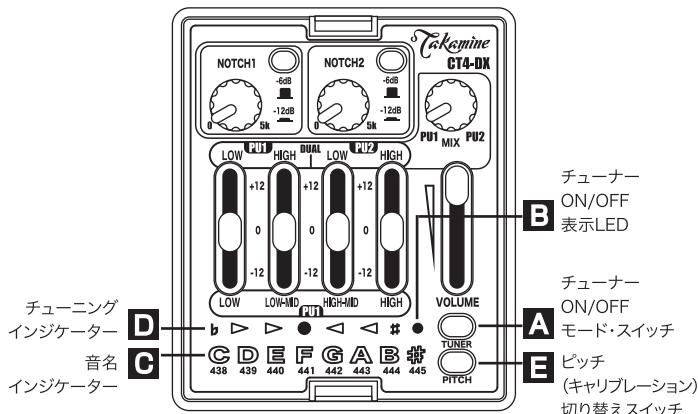
押し込むと、NOTCH2で設定した周波数を更に深く
-12dbカットします。

●MIX

2つのPUのミックス比を決定します。
左に回し切りでPU1(タカミネ・パラスティックPU)のみ、
右に回し切りでPU2のみ、となります。

チューナー使用方法

チューナー・ファンクション



【△チューナー電源についてのご注意】

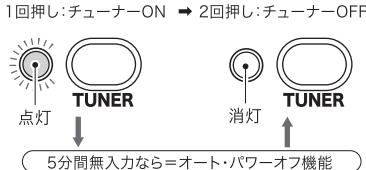
生ギター／エレ・アコどちらでご使用の場合も、チューナーをONにした状態で、5分以上ギターを弾かない（入力が無い）場合、自動的にチューナーがOFFになるオート・パワーオフ機能が搭載されています。この機能は、チューナー使用時の電源切り忘れによる電池の消耗を防ぐためのもので、無入力状態が続いた後に、自動的にチューナーがOFFになんでも故障ではありません。オート・パワーオフ機能は、チューナーのON/OFFにのみ有効で、特に生ギターとしてのご使用時にチューナー機能

1. AのチューナーON/OFF・モード・スイッチをONにし、チューナーを作動させます。

※チューナーON/OFF・モード・スイッチは、ギター本体のエンドピン・ジャックにギター・ケーブルを接続しない生ギターとしての使用時と、ギター・ケーブルを接続しアンプ等を使って再生するエレ・アコとしての使用時では、機能が異なります。

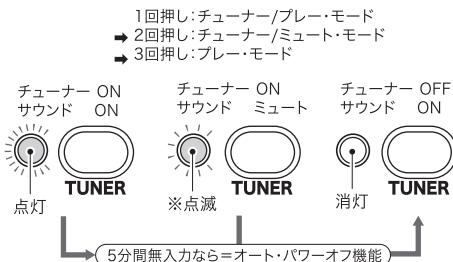
(生ギターとして使用時)

生ギターとしてチューナー機能のみを使用する場合、エンドピン・ジャックにギター・ケーブルを接続する必要はありません。



(エレ・アコとして使用時)

ギター本体のエンドピン・ジャックにギター・ケーブルを接続し、エレ・アコとしてご使用の場合、チューナー機能は以下の通りにモード設定でき、チューニング中の音を出さない“チューナー／ミュート・モード”も選択できます。



ピッチ設定(キャリブレーション)の方法

1. AのチューナーON/OFF・モード・スイッチをONにし、チューナーを作動させます。

2. ピッチ切り替えスイッチ [F] を1回押すと、キャリブレーションモードとなり、現在設定されている基準ピッチを示す音名インジケーターが点滅します。(初期設定はA4=440Hzです。)

3. 音名インジケーターが点滅しているとき、再度、ピッチ切り替えスイッチを押すごとに音名インジケーターの点滅位置は1ステップ(1Hz)ずつ移動します。希望する基準ピッチに達したらピッチ切り替えスイッチの操作を止めます。

点灯する音名インジケーター
基準ピッチ : 438 → 439 → 440 → 441 → 442 → 443 → 444 → 445 → #

A チューナーON/OFFモード・スイッチ

チューナーのON/OFFスイッチとして機能します。エレ・アコとしての使用時には、接続したアンプ等からチューニング中の音を出さない“ミュート”状態も選択できます。

B チューナーON/OFF表示LED

チューナー機能をONにした状態で、このLEDが点灯(*点滅)します。プリアンプに搭載されている電池が消耗していくとこのLEDの輝度が低下します。LEDの輝度が低下し始めるとプリアンプの動作に影響が出てきますのでお早めに電池の交換をおこなってください。

C 音名インジケーター

弦を弾くとその時点での近い音名が点灯表示されます。ピッチ設定を変更する際には、選択した基準ピッチ(438～445)の上の音名が点滅表示されます。

D チューニングインジケーター

チューニングの状態をこのインジケーターが点灯し表示します。

E ピッチ(キャリブレーション)切り替えスイッチ

チューナーの基準ピッチを変更したい時、このスイッチで設定します。

のスイッチの切り忘れによる不用意な電池消耗を防止するのに効果的です。エレ・アコとしてご使用の場合も、チューナーのオート・パワーオフ機能は有効ですが、プリアンプのサウンド設定機能のON/OFFはエンドピン・ジャックへのギター・ケーブルの抜き差しによってのみ行われますので、ギター・ケーブルの抜き忘れは、電池を消耗する原因となります。以上の点にご注意頂き、電池を不意に消耗しないようご留意ください。

2. 弦を弾きます。その時点での近い音名が半音単位で音名インジケーター [C] に点灯表示されます。♯マークの点灯を伴って音名表示する場合もあります。

3. 点灯する音名インジケーター [C] と、チューニングインジケーター [D] を見ながらギターの音程を調整します。チューニングしたい音名のインジケーターが表示され、チューニングインジケーターの中央●(緑色のLED)が点灯したらチューニングが完了です。

【チューニング時のご注意】

1. 搭載されているチューナーは、高感度に設計されているため、最初に入力した音より次に入力された音が大きくなれた場合、自動的に雑音として判断し、表示しないことがあります。例えば弦を強く(あるいは弱く)弾き過ぎたときや、連続して弾いたときなどです。より、正確にチューニングするため、ゆっくり弦を弾くことをお勧めします。

2. 周囲の電気機器などから発生する強いハムノイズを拾い、インジケーターが不定に表示される場合がありますが、故障ではありません。ギターの弦を弾き音が入力されると、正常にチューニングできます。

4. 操作を止めた時点から約2秒後に自動的にチューニング・モードへ戻ります。

尚、チューナーON/OFF・モード・スイッチ [A] をOFFにしても、設定された基準ピッチはバックアップ(保存)されます。

エレ・アコとしての使用時も、電池残量が無くならない限り、ギター・ケーブルの接続プラグの抜き差しによるON/OFFをおこなっても、設定された基準ピッチはバックアップ(保存)されています。

尚、電池の交換時などバッテリーケースをプリアンプ本体から引き抜いた場合、ピッチは初期設定440Hzに戻ります。必要に応じて再度設定をおこなってください。